

# 教員業績評価（平成18年度試行評価）の結果について

平成19年9月21日 大学評価委員会

九州大学は、「教育憲章」、「学術憲章」に掲げる使命と理念を達成するため、「知」の創造拠点として活性化に富む個性豊かな教育研究を発展させ、かつ社会貢献、国際貢献を推進することを目標としています。

この度、各部局毎に試行的に実施した教員業績評価は、これらの目標を達成する方策の一つとして位置づけています。その目的は主に二つあります。第一に、各教員が自己評価を通じてそれぞれの教育研究活動の現状を自ら把握し、改善向上の手掛かりとすることです。第二に、部局の組織的活性化を図るため、部局長が部局内の教育研究活動状況を全体的に把握し、得られた知見を将来構想における諸施策に活用できるようにすることです。

評価の実施に際しては、大学全体の基本的枠組を設定した上で、各部局ごとにそれぞれの専門領域や多様な事情に配慮した実施体制や評価方法を工夫できるよう配慮しました。

今回の試行は、本学が定めた「九州大学教員業績評価の実施について（平成18年3月17日総長裁定）」に基づいて実施しました。

評価の手順は、平成18年度当初に各教員が「教育」、「研究」、「国際交流」、「社会連携」、「管理運営」の5分野について、2年間の各々の活動計画を示し、1年目終了時の当該計画の進捗状況について自己評価を行いました。また併せて、5分野毎に設けた評価項目毎に、分野別自己評価を行いました。

部局長又は部局教員業績評価委員会等は、各教員の活動計画とその進捗状況を参考に、各教員が行った分野別自己評価の結果について、部局としての評価を行いました。

試行結果の主な状況は、以下のとおりです。

## 1. 評価の実施体制、実施方法等

試行評価は、全部局において、部局長又は部局教員業績評価委員会等が専任の教員を対象に行った。

○部局長 . . . 22部局

- ・部局長が単独で、各教員の教育研究等活動計画や自己評価を参照し、また実際の活動状況の観察等を通して評価を行った。
- ・部局教員業績評価委員会での検討を踏まえ、部局長が最終的な評価を行った。

○部局教員業績評価委員会等 . . . 23部局

- ・部局教員業績評価委員会において、所属教員の自己評価を参考に評価を行った。

## 2. 評価の実施状況

全部局において、ほぼ全教員の評価が実施された。

なお、一部の教員について評価を実施しなかった主な理由は以下のとおりである。

- ・定年退職
- ・18年度中途採用（平成18年度の在籍期間が短い教員）
- ・休職
- ・長期海外渡航
- ・外国人教員（日本語を解さないため日本語での記入が困難） 等

### 3. 評価結果の全体的状況

ほとんどの部局において、部局評価が「高い：H」と「普通：M」の集中化が見られた。

「極めて高い：S」及び「低い：L」の評価は、部局毎において、教員全体のほぼ1割程度の範囲内であった。

また、「国際交流」、「社会連携」及び「管理運営」の分野については、「該当なし」の標記が多い。

さらに、複数の部局において、部局独自の評価分野が設定されている。

(例：学会活動、入試業務、診療、研究支援、産学連携、センター業務、室業務、資料管理等)

【参考】	S	極めて高い活動状況である	H	高い活動状況である
	M	普通の活動状況である	L	低い活動状況である

### 4. 評価結果の概要（部局の意見を抜粋）

#### (1) 評価結果の全体的傾向

- ・自己評価は、抑制的・自重的になされる傾向が見られた。
- ・全体的に高い活動状況であるが個人差も大きい。
- ・推進室等では、大学全体の管理運営等に関わる業務が主であるため、教育、研究等の評価には困難が伴い、結果的に「該当なし」となった。

#### (2) 評価分野別の状況

- ・「教育」、「研究」に関しては、ほぼ全教員が熱心に取り組んでいる様子がうかがえる。
- ・「国際交流」、「社会連携」及び「管理運営」に関しては、教員によって活動状況の相違が生じている。
- ・全学委員会への参画、並びに部局内委員会の運営に多大の時間を費やしている状況が明確になった。
- ・重みを高く設定している分野で、高い評価がなされている。

#### (3) 自己評価と部局評価の差異の状況（部局数は重複有）

- ・教員による自己評価と部局評価には相違があった。（14部局）
- ・教員による自己評価と部局評価は概ね一致している。（17部局）
- ・基本的には自己評価を尊重した。（6部局）

#### (4) 面談の状況

- ・提出書類を基本とし、面談は実施していない。（19部局）
- ・ほぼ全教員に対して面談を行った。（4部局）
- ・必要に応じて面談を行った。（4部局）

教員業績評価は、平成18年度から19年度までの2年間に試行を実施し、学内の意見等をもとに更に検討を進め、平成20年度から正式に実施する予定です。

※ 参考：「九州大学教員業績評価の実施について」（平成18年3月17日総長裁定）

URL：<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/hyoka/pdf/unyouban.pdf>